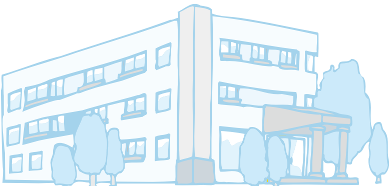

# 地域の人口増加対策を

◆市営住宅等の管理委託

問　渋沢団地の完成に合わせ、市の管理する住宅を、一括で外部管理委託すると聞いたが、どう進める予定か。（宮田）

答　事業者選定は、公社ありきでなく広く民間も含めてプロポーザル方式を考えている。

◆渋沢団地跡地利用は

問　渋沢団地の跡地について、特に片丘地区は、少子高齢化が進んでいる。跡地利用について、その後どうなっているか。（青木）

答　市営渋沢団地跡地の利用については、地元片丘地区の状況や皆さんの要望等を聞く中で、宅地として開発分譲できないか検討している。

市営住宅　渋沢団地

◆若者定住促進住宅について

問　北小野だけでなく、市全体のスローガンになり得るか。また市内空き家の活用についてもあわせて方向性を。（務台）

答　定住促進対策での利活用を視野に入れ、空き家調査を実施。152戸の物件が利用可能。賃貸や売買等に関心を示した所有者は12件あり、「空き家バンク」制度を検討する。

北小野地区若者定住促進住宅

# 街のにぎわいをつくる

◆広丘地区まちづくり

問　広丘支所と広丘商工会の拠点施設の確保は。（永井）

答　支所の新築については、まちづくりの核施設としてとらえ、場所は利用者の利便性と駐車スペース等が重要な要素と考えている。商工会要望の活動拠点の確保も慎重に検討する。

◆市民交流センターについて

問　利用状況は。（中村）

答　来館者は現在、開館以来84万人超。月5万人のペース。貸出冊数は50万冊を超え、市民一人当たりの貸出数は県下1位。図書館利用新規登録は、年6千700人で従来の6倍強である。子育て支援センターは、1万9千人で、3倍の利用となっている。視察の受け入れは、正式なもので105団体、1千600人を越えている。

市民交流センター「えんぱーく」

# 安全なみちづくり

◆国道19号線安全対策

問　楢川地区の旧道への侵入に対する右折レーン設置等の安全対策の考えは。（森川）

答　新規事業化に向け調査費確保を関係機関へ要望する。

◆道路アセットマネジメント

問　事業内容は。（中村）

答　従来の事後補修型から予防保全型の道路補修をするための測定であり、測定3年間、改修を5年計画で実施する。

◆市道、歩道について

問　通学路の拡幅、市道君石野村線は現在中学校に通学する生徒が利用している。道幅がせまく危険な状態である。道路の拡幅を。（青木）

答　朝夕は通勤による通過車両も多くみられ、車のすれ違いもままならない。生徒の通学路として、歩行者の安全を考慮し拡幅が必要と考える。

通学路となっている市道君石野村線